

## 資材を効率的に活用したクリの害虫防除技術と貯蔵技術の開発

### 1 中核機関・研究総括者

茨城県農業総合センター園芸研究所

長塚 久

### 2 研究期間

2003～2005年度（3年間）

### 3 研究目的

クリ生産では、クリシギゾウムシ防除に不可欠である臭化メチルの全廃に対応した新たな防除法の緊急開発とクリの生産量を増大できる貯蔵技術の開発が生産者から要望されている。そこで、環境への負荷の少ないクリシギゾウムシ防除法を開発するとともに、防除に用いた資材を活用したクリ果実の長期貯蔵技術を開発する。

### 4 研究内容及び実施体制

くん蒸剤とくん蒸用フィルムを利用したクリシギゾウムシ防除法の開発（茨城県農業総合センター園芸研究所、埼玉県農林総合研究センター園芸支所、熊本県農業研究センター果樹研究所、(独)農業技術研究機構果樹研究所）

ドライアイスと耐圧性フィルムを用いたクリシギゾウムシ防除技術、及び炭酸ガス主体の混合ガスを用いたくん蒸法によるクリシギゾウムシ防除技術を開発する。また、ガス不透過フィルムを用いたくん蒸剤のリサイクル利用技術を開発する。

防除資材を活用したクリ果実の長期貯蔵技術の開発（茨城県農業総合センター園芸研究所、(株)ダイワパックス、日酸TANAKA(株)）

クリシギゾウムシ防除に用いた炭酸ガスやフィルム等を活用したクリ果実の長期貯蔵技術を開発する。

### 5 目標とする成果

地球環境への負荷の少ない資材を効率的に利活用した環境保全型のクリ生産技術が確立される。これにより、クリの生産維持と生産量の増大が可能になるとともに、クリ生産における環境保全型農業の推進に貢献できる。